

警察庁



2023

一般職技術系 職員募集案内



警察庁

National Police Agency

採用に関するお問い合わせ

警察庁長官官房人事課 一般職技術系採用担当
〒100-8974 東京都千代田区霞が関二丁目1番2号
TEL : 03-3581-0141(代表)/内線2698
E-mail : ippansyoku-saiyo@npa.go.jp

警察庁採用情報サイト

<https://www.npa.go.jp/about/recruitment/index.html>

警察庁HP



Twitter

@NPA_infocom2

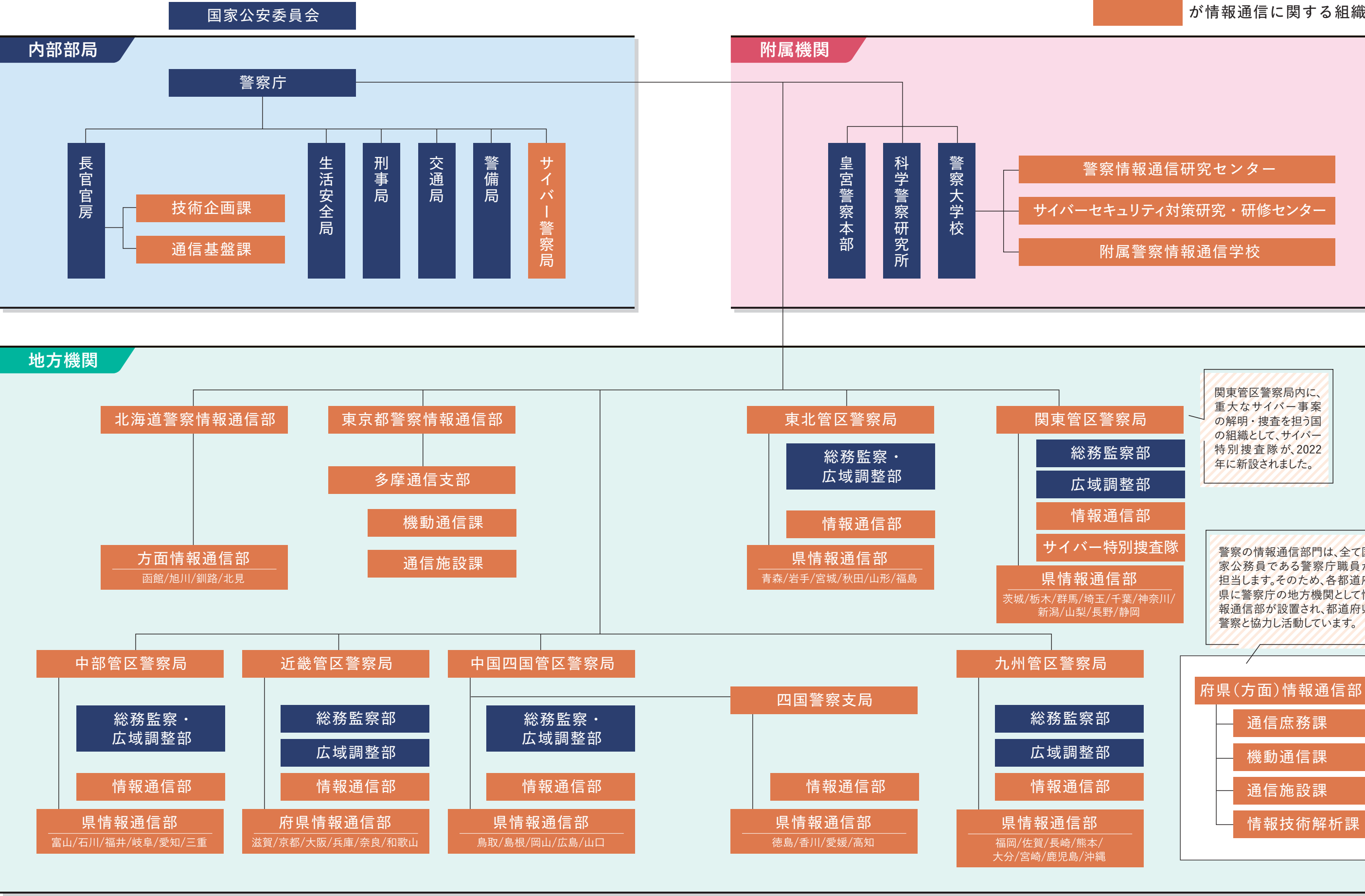


深刻化するサイバー犯罪・サイバー攻撃の脅威。
 厳しさを増す安全保障情勢。
 このような時代だからこそ、
 国民が警察に寄せる期待は
 これまで以上に大きくなっています。
 そして、これらの期待に応えるためには、
 様々な先端技術の登場や社会のデジタル化の進展により、
 技術の力が不可欠な時代が到来しています。
 技術的な知見を、
国民の安全・安心のため、
社会秩序の維持のため、
 遺憾なく発揮できるフィールドが
警察庁にはあります。
 理系として培った深い**洞察力**や**論理的思考力**、
 組織を牽引していく**統率力**、
 不正を許さぬ**正義感**、
 そして、豊かな人間性を備えた「**あなた**」が、
 警察庁の門をたたくことを期待しています。



CONTENTS

警察機構図	4 - 5
一般職技術系の役割・魅力	6 - 7
サイバー警察局	8 - 9
地方機関	
機動通信課	10 - 11
通信施設課	12 - 13
情報技術解析課	14 - 15
警察庁内部部局	16
附属機関	
警察情報通信研究センター	17
サイバーセキュリティ対策研究・研修センター	
多様な活躍のフィールド	18
研修制度	
初任研修・職場研修	19
通信職員養成科(技術初任)	20 - 21
職場における各課での研修(OJT)	22
通信職員養成科(技術補習)	
専門教養(各種専科入校)	23
若手座談会	24 - 25
キャリアパス	26 - 28
ワークライフバランス	29
採用Q&A	30
採用窓口	31



警察庁一般職技術系職員の役割・魅力

技術のプロフェッショナルとして能力を発揮

警察庁には、「情報通信技術」という専門性をキャリアの軸にした、技術のプロフェッショナルがいます。それが、警察庁の一般職技術系職員です。警察独自の情報通信ネットワーク・情報管理システムの構築や、犯罪捜査における技術的支援等の業務を担い、国民の安全・安心を守る第一線警察活動に欠かせない存在となっています。

多様な活躍のフィールド

警察庁本庁での勤務はもとより、都道府県警察や他省庁への出向、海外・国内の大学等での研究など、現場で培った技術力を活かし、チャレンジ・活躍できる環境が警察庁にはあります。採用区分にとらわれず、広い知見を持つことは、今後のあなたを成長させ、ひいては警察の未来を支えていくことにつながります。

充実した研修制度

採用1年目の採用時研修や、採用2年目以降の充実した各種研修など、基礎的な内容から専門的な内容まで、全国の同期と切磋琢磨しながら学ぶことができる質の高い研修制度が整っています。

ワークライフバランスの推進

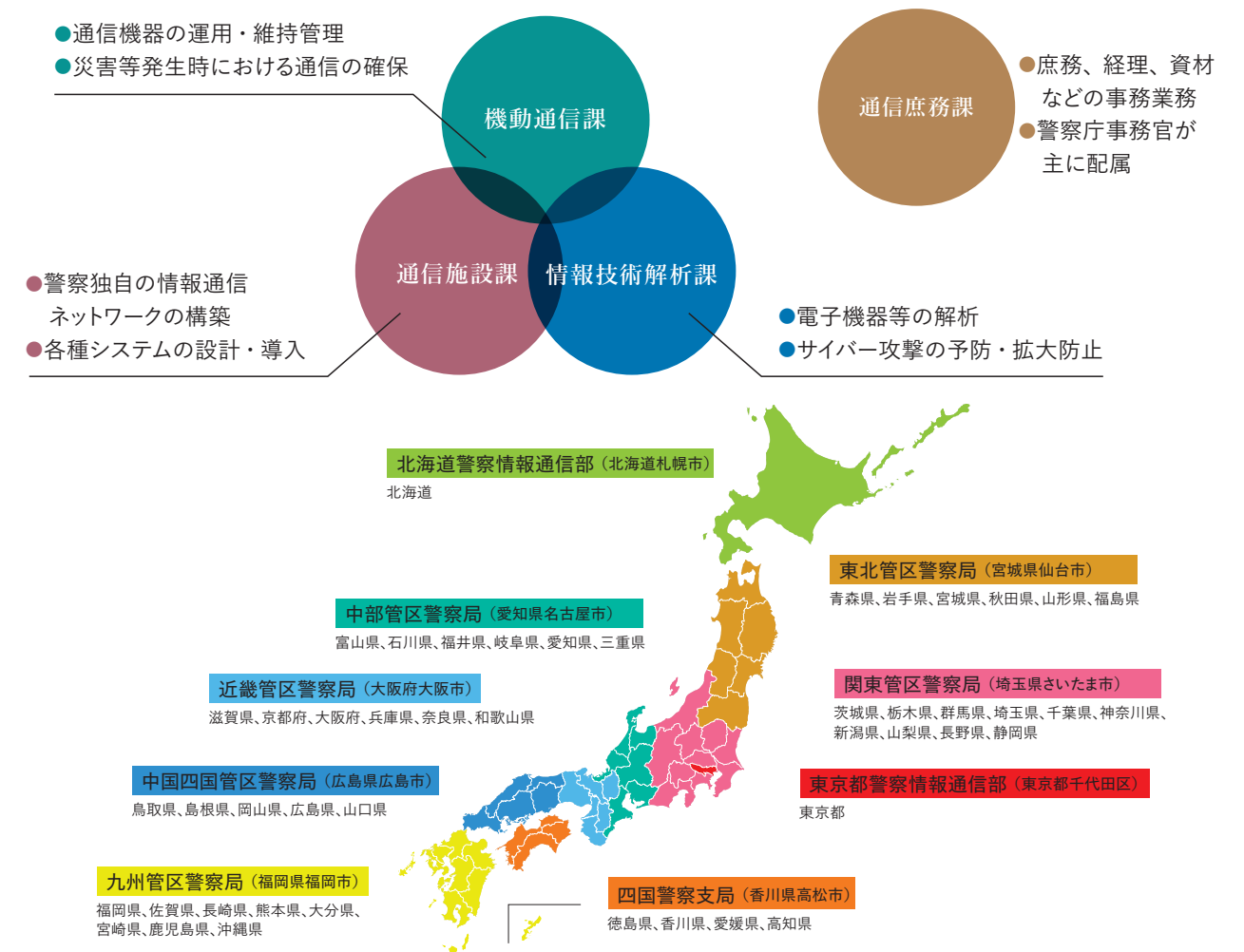
職員が仕事に打ち込むためには、ワークライフバランスの推進が不可欠です。政府が掲げている「働き方改革」を推進し、職員が自己の能力を最大限に発揮できるよう、職場として後押ししています。また、子供が3歳になるまで休業できる育児休業制度をはじめとした妊娠・出産・育児の支援に関する制度も整っており、男女関係なく、子育てをしながら長く安心して働くことができます。

採用機関と勤務先

警察庁は、主に東京に所在する内部部局のほか、附属機関、全国の各地域を管轄する地方機関で構成されています。地方機関には、エリアごとに置かれた6つの管区警察局と、四国警察支局、北海道警察情報通信部、東京都警察情報通信部があり、警察庁の一般職技術系職員は地方機関ごとで採用され、基本的には採用された機関内で勤務します。また、本人の希望や適性により本庁内部部局や附属機関等での勤務の機会もあります。

勤務地は、各府県庁所在地（北海道は道内主要地域、東京都は千代田区及び立川市）となります。

各都道府県には情報通信部が設置されており、基本的に通信庶務課、機動通信課、通信施設課、情報技術解析課の4課で構成されています。このうち、通信庶務課を除く3課が、一般職技術系職員の主な活躍のフィールドとなります。



各機関の役割

各都道府県の情報通信部では、警察本部、警察署等において必要な通信施設の整備・維持管理を行うほか、各種事案に即応した情報通信対策を行うなど、各エリアにおける第一線現場の対応を担っています。また、管区警察局の情報通信部は、府県情報通信部と連携して、警察庁や都道府県警察を結ぶネットワークの整備、管理等を行い、全国警察の有機的連携の確保に努めています。

一方、警察庁本庁（内部部局）は、全国統一的なシステムの企画を行うなど、全国警察に関する政策を企画・立案することが主な役割となっています。





サイバー警察局

Topic

サイバー警察局設置の沿革

社会のデジタル化が進み、社会・経済の両面において、サイバー空間の安全・安心を確保することの重要性が増す一方で、国家を背景としたサイバー攻撃や、悪質なマルウェアを用いたサイバー事案も発生するなど、サイバー空間をめぐる脅威は極めて深刻な情勢となっています。

今後、国民のサイバー空間への参画が一層進めば、サイバー空間の脅威が国民に及ぼす影響もより大きくなっていく上、技術の進歩により、新たな手口によるサイバー事案の発生も懸念されます。こうした社会情勢を適切に見極め、その変化に柔軟に対応した取組を進めていくために、令和4年4月に警察庁の内部部局としてサイバー警察局が設置されました。

サイバー警察局は、サイバー事案への対処に関する全国警察の司令塔として、関係省庁や民間事業者との連携、人材の育成、国際連携等を通じて、サイバー事案の実態解明や被害の防止対策を行い、国民が安心してインターネット等を利用できる社会の実現を目指しています。

サイバー特別捜査隊の任務

サイバー特別捜査隊は、令和4年4月に関東管区警察局に新設された国の捜査機関で、全国を管轄として「重大サイバー事案」の捜査を担当しています。

「重大サイバー事案」とは、国民の生活を支える重要インフラへの攻撃、対処に高度な技術を要する事案、海外のサイバー攻撃集団によって引き起こされた事案等を指します。こうした事案に対しては、サイバー分野の高度な知識・技能等、日本警察の有する能力を集約して対処する必要があります。

そこで、サイバー特別捜査隊では、優秀なサイバー人材と高性能な資機材を集め、重大サイバー事案に関する高度な分析・捜査を行っています。また、国境を越えた重大サイバー事案に対しては、国を代表する捜査機関として、外国捜査機関との強固な連携のもと、事案の解決に向けた活動を行います。

このように、サイバー特別捜査隊は、サイバー空間の安全・安心を確保するために重要な役割を担っています。

サイバー空間の秩序のために

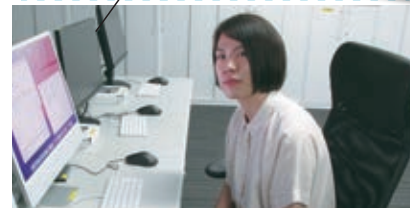


警察庁サイバー警察局
サイバー企画課 主任

2009年採用
I種試験 電気・電子・情報

2009年 中部管区警察局 採用
2013年 県情報通信部主任
2017年 警察庁情報通信局主任
2022年 現職

技術で警察活動へ貢献する。



警察庁サイバー警察局
情報技術解析課 高度情報技術解析センター 主任

2016年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2016年 東北管区警察局 採用
2019年 県情報通信部主任
2020年 東北管区警察局主任
2021年 警察庁情報通信局主任
2022年 現職

不可能を可能にするのは、私たちだ！



関東管区警察局
サイバー特別捜査隊 副隊長

1996年採用
無線従事者資格

1996年 九州管区警察局 採用
2004年 県情報通信部係長
2010年 警察庁情報通信局係長
2014年 県情報通信部課長補佐
2018年 九州管区警察局課長補佐
2020年 福岡県警察出向 課長級
2022年 現職

01 現在の業務内容

私は現在、主にインターネット・ホットラインセンターの運用等のインターネット上の違法・有害情報対策や、サイバー防犯ボランティアの活動に関する企画、サイバー相談の分析等に従事しています。

02 業務をする上で心がけていること

警察庁本庁の業務は、全国警察の司令塔として現場活動を支える重要な仕事です。各都道府県警察が抱える課題と向き合い、現場警察官の助けになることを第一に考え、丁寧に対応することを心がけています。

また、インターネット・ホットラインセンターから犯行予告、自殺予告等の緊急情報を受理した際は、人命保護の観点から情報内容を素早く分析し、都道府県警察へ通報するなど、緊張感を持ってスピードを重視した対応に努めています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員が担う業務の最大の魅力は、これまで培ってきた知識・技術を活かして現場の警察を支え、日本の治安維持に貢献できることです。また、無線通信の保守からサイバー犯罪対策に関する企画業務まで幅広い業務があり、業務が変わる度に新たに知識・技術を修得できる点も魅力の一つです。様々な業務に対応しなければならないのは大変ですが、研修制度や周囲のサポートも充実しているので、安心して業務に取り組みます。

変化する社会・環境に適切に対処し、サイバー空間の治安を守るには、多様な考え方、新鮮な発想が必要不可欠です。この仕事に興味を持たれた皆さんと同じ職場で一緒に働ける日を楽しみにしております。

01 現在の業務内容

高度情報技術解析センターでは、犯罪捜査におけるデジタル・フォレンジックの中核として、特に高度な技術が必要とする解析を実施しています。私は現在、インターネットに接続される様々なIoT機器から犯罪の証拠となるデータの抽出・可視化を行うための手法の調査や、警察官等からの解析に関する技術的な相談対応、解析に使用する専用資機材の調査など、幅広い仕事を行っています。

02 現在の業務で一番達成感を感じたこと

高度な知識や技術が求められる解析の依頼や相談を受けた際は、知らないことや分からないことに直面することが多くありますが、上司や同僚と相談しながら対処方策を検討しつつ、不足する知識や技術を積極的に身に付ける努力をしています。解析を行った結果、捜査に有用な情報が抽出・可視化でき、警察官等の期待に応えられたときは、私が行った解析が捜査活動に貢献できた達成感を感じています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

自分が学んできた電気・電子分野で警察活動を支えていきたいと思い飛び込んだ世界ですが、解析に必要なとされる知識や技術は幅が広く、採用時研修や専門研修など充実した研修制度を利用することで、仕事をしながら、自分自身の知識や技術を高めることができます。

今持っている技術に不安を持つ方もいるかと思いますが、まずはチャレンジしてみるという気持ちを大事にしてください。

01 現在の業務内容

私の業務内容は、担当業務を全て掌握して、サイバー空間で発生した重大事件の捜査のために隊員ひとりひとりの特徴や強みをしっかりと把握し、それぞれがやりがいを持って仕事を行えるよう、適切な人員配置や捜査管理を行うことです。そのため、サーバーのログや不正プログラムの動作を分析する高度な技術力だけでなく犯罪捜査の指揮能力も必要とされています。

02 業務をする上で心がけていること

サイバー特別捜査隊は、令和4年4月に発足した新組織であるため、卒にとらわれることのない自由なマインドで業務を行い、迷ったときは、県民や国民のために何が一番良いのかと自問自答し、常に原点や本質に立ち戻れることをモットーに業務を遂行しています。また、部下職員に対しては、結果や成果のみで判断せずに、周囲には見えにくい努力を見つけ、自分の言葉でほめるということを常日頃から心がけています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

体育会系のイメージのある警察ですが、私たちは技術力で警察活動を支えています。皆さんが学生時代に勉強した技術や特技を活かせるやりがいのある職場です。また、皆さんの可能性は無限大です。今後、私たちと一緒に、海外の捜査機関や全国の警察と連携して、重大サイバー事案の実態解明を行い、サイバー空間における安全・安心の確保に邁進しませんか！



機動通信課

業務概要

警察活動においては、あらゆる事件、事故、災害等に迅速かつ的確に対応するため、指揮、報告、連絡等に用いる強靱な情報伝達手段が不可欠であり、無線機等の通信機器や無線中継所等の通信施設は「警察の神経系統」として大きな役割を果たしています。

機動通信課では、これらの通信機器・通信施設が常に万全の機能を発揮できるように、平素から点検、調整、監視といった維持管理業務に当たるとともに、災害や障害等の発生に備え、想定外の事態でも対処できるように実戦的な訓練を繰り返し行っています。

実際に事案が発生した場合は、情報通信部の職員で構成する機動警察通信隊が直ちに出勤し、現場の状況を撮影して警察本部へ映像を伝送するほか、無線などの通信機器により、現場活動を行う警察官の通信手段の確保を行います。

このほか、世界的な会議や博覧会、大規模国際大会のようなイベントが国内で開催される際には、大規模な警備が行われますので、警備が円滑に実施できるよう必要となる通信の確保を行います。

様々な業務を通じて
自身のスキルアップを
図れます！



北海道警察情報通信部
釧路方面情報通信部 機動通信課 係長

2018年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2018年 北海道警察情報通信部 採用
2021年 北海道警察情報通信部主任
2022年 現職

他ではできない仕事が
できる職場です。



関東管区警察局
栃木県情報通信部 機動通信課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度) 化学

2021年 関東管区警察局 採用
2022年 現職

01 現在の業務内容

津波や地震等の自然災害発生時における警察通信の運用維持に関わる業務を担当しています。特に釧路方面は、今後、大地震による津波被害で大きな損害を受けることが予想されており、災害通信対策は特に重要な業務となっています。

02 警察庁を志望した理由

私は元々、インフラ系の技術者になることを志望していました。警察庁では日本全国における警察業務に対応するため様々な通信設備を有しており保守や運用、設計・整備等、活躍の場が広くあり、自身のスキルを高めることが出来るであろうと考えたのが志望理由です。

03 業務をする上で心がけていること

機動通信課では、緊急時における対応など、緊急で業務が入ることがあるので日々の業務を計画的にゆとりをもって行えるようスケジュール管理をしっかりと行うことを心がけています。また、常に報告・連絡・相談を意識し、業務に滞りが発生しないように心がけています。

04 職場の雰囲気について

上司や先輩を問わず活発な意見交換が行われており、何でも言い合える雰囲気の職場です。また、有事の際を除いて有給休暇を取得しやすい雰囲気があり、働きやすい職場です。

05 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員は、警察庁だけでなく他省庁や都道府県警察等、活躍出来るフィールドが多くあります。警察庁での業務部門は多岐にわたっていますが、1年間の充実した研修制度がありますので、その期間でしっかりと学ぶことが出来ます。また、女性の採用も増えてきており、女性技術者についても働きやすい環境が整っています。是非、一緒に警察組織の技術者として働きましょう！

01 現在の業務内容

警察が使っている電話やネットワーク、警察官が集めた情報を管理するシステムなどの点検や保守作業を担当しています。また、火災現場などに行って映像を撮影・伝送したり、身の代金目的誘拐事件を想定した訓練を行ったりもしています。

02 警察庁を志望した理由

私は大学院まで化学を専攻してきましたが、機械や情報系の分野に興味があり、そういった仕事に就きたいと考えていました。警察庁の情報通信部門は他分野からでも応募することができ、かつ業務が幅広く、入庁してから自分合った仕事を探せると考え志望しました。

03 業務をする上で心がけていること

業務をする上で心がけていることは、「疑問に思ったことをすぐに解消すること」です。私は機械や情報の分野について専門ではなかったため、一から学んでいく必要がありました。そのため、「このシステムはどのような仕組みで動いているのだろうか?」や、「この機械の設定にはどのような意味があるのだろうか?」といった疑問はそのままにせず、自分で調べたり上司や先輩に聞くなどしてその都度解決するように心がけています。

04 現在の業務で一番達成感を感じたこと

自分で学んだ知識や経験を業務に生かせたときに達成感を感じます。近年は、情報通信技術の進展に伴い、警察が扱うシステムも高度化しています。最初は何も分からなくても、少しずつシステムの構成や仕組みを理解し、不具合の対応等で経験を積んでいくことで、担当できる業務が増えていきます。自分が成長していることを実感できたときに喜びを感じています。

05 職場の雰囲気について

気軽に質問できる雰囲気があります。機動通信課には、都道府県警察から出向している警察官の方もいるため、全員が機械に詳しいわけではありません。分からないことを丁寧に教えていただける環境が整っていると感じています。

06 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

多くの職員が他分野からの採用であり、研修期間も長いので、入庁してから学ぶ機会がしっかりと設けられています。ただ、警察独自のシステムも数多くあり、幅広い業務を担当することになるため、学ぶ気持ちは大切にすべきだと感じています。



通信施設課

業務概要

いつどこで発生するか分からない事件、事故、災害等に的確に対応するため、警察では全国を網羅する通信網が構築されており、現場警察官の指揮命令や報告連絡等に活用されています。

通信施設課では、このような通信網を実現する警察通信施設の整備を行っています。整備に当たっては、耐災害性、利便性、コスト等を考え、警察にとって最適な技術を導入することが求められており、先端技術情報の収集や、関係省庁、民間事業者等との連携が欠かせません。

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、重要施設、関連施設等に臨時的警察通信施設を設置し、円滑な現場警察活動に貢献しました。警備の「神経系統」を情報通信技術により整備する通信施設課の責務は、ますます重要なものとなっています。

国民の安全・安心を守る一翼を担っている。



九州管区警察局
福岡県情報通信部 通信施設課 係長

2012年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2012年 九州管区警察局 採用
2015年 県情報通信部主任
2017年 九州管区警察局主任
2018年 警察庁情報通信局主任
2021年 現職

01 現在の業務内容

私は現在、警察通信施設の維持管理に関する業務を担当しています。いかなる有事の際にも警察通信施設が滞りなく稼働し、警察活動に支障をきたすことがないように計画的な維持工事等を行っています。

02 業務をする上で心がけていること

常に業務に優先順位を付けて、より効率的に行えるよう心がけています。様々な業務を並行して進めていく上で、滞りなく円滑に遂行できるように各業務の期限や重要度を念頭に置き、計画的に実施しています。

03 現在の業務で一番達成感を感じたこと

警察無線が当たり前に使えて、警察活動が滞りなく行えているとき、日々我々が行っている業務に意義を感じています。

04 職場の雰囲気について

日常、仕事の会話だけでなく、昼休みなどにはざっくばらんな話が飛び交うなど明るい雰囲気です。また、業務で分からないことがあり困っていても、親切に教えてもらえるので安心して業務を進めることができるアットホームな職場です。

05 警察庁を志望した理由

漠然とはありますが、子供の頃から警察に憧れを抱いていました。学生時代に学んだ知識を活かせ、日々自身の技術を磨くことで、人を支えることができる警察庁の仕事に魅力を感じ志望しました。

06 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員の業務は多岐にわたり、その業務によって必要な知識や技術も違うため、日々の業務を通じて様々な経験をできることが魅力の一つです。そして、そのいずれの業務も警察活動を支える重要な業務であり、技術系職員としてやりがいを感じながら日々を過ごすことができます。皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

毎日新しいことにチャレンジ



関東管区警察局
神奈川県情報通信部 通信施設課 主任

2018年採用
一般職試験(大卒程度) 土木

2018年 関東管区警察局 採用
2022年 現職

01 現在の業務内容

警察通信施設に関する工事の計画・発注・監督業務に従事しています。神奈川県下全域で行う無線設備の点検作業や交番の統廃合に伴う支障移転工事を担当する傍ら、近年中に行う大規模工事の準備を行っています。工事仕様書の作成や関係者との調整といったデスクワークから工事対象物の調査や工事監督といったフィールドワークまで、業務は多岐にわたります。

02 業務をする上で心がけていること

上司や同僚に情報を共有することです。工事を実施するためには課内で協力するのはもちろんのこと、工事について契約を担当する通信庶務課、システムのメンテナンスを担当する機動通信課、システムを使用している都道府県警察との連携も必要となります。そのため、抱え込まずに周囲に相談し組織での対応を心がけることで、より良い工事の実施につなげています。

03 現在の業務で一番達成感を感じたこと

私達の工事は、完成検査に合格することで終了します。完成検査の合格は、書類の決裁や敷設したケーブルの導通確認、システムの新旧系統切替え後の正常性確認といった様々な結果を積み重ねた末に得られるものであり、その達成感他には代えがたいものです。

04 職場の雰囲気について

係の垣根を超えて相談や世間話をよくする明るい雰囲気です。対象となる警察通信施設が様々であり、また課員の得意とする分野も様々であるため、課内全体で知恵を出し合います。

05 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

警察の情報通信部門は、「警察の神経系統」と呼ばれるほど警察活動において重要な位置付けとなっています。独自のシステムがいくつもあり、それらを整備し管理するために多様な人材を求めています。全員が力を発揮できるように採用後1年間に研修に充てられるため、採用時に未知の分野があっても確実にフォローされます。毎日に変化があって楽しいですよ。一緒に働ける日を楽しみにしています。



情報技術解析課

業務概要

昨今では、パソコンやスマートフォンだけでなく、家電を始めとしたあらゆるものがインターネットにつながるようになっており、サイバー空間は私たちの日常生活の一部となっています。一方で、様々なWeb サービスを悪用した新たなサイバー犯罪が次々と現れるほか、社会の機能を麻痺させるサイバー攻撃が世界規模で発生するなどサイバー空間における脅威は深刻な状況にあります。また、スマートフォン、パソコン等の電子機器はサイバー犯罪・サイバー攻撃のみならずあらゆる犯罪で犯罪者に悪用されています。

情報技術解析課は、多様化・高度化するサイバー犯罪・サイバー攻撃等の事件捜査や防犯対策において、都道府県警察を技術的に支援する役割を担っており、電子機器からの情報の抽出・可視化、不正プログラムの解析、発電所等の重要インフラ事業者に対するセキュリティ対策に必要な技術情報の提供等を行っています。

技術を活かして
国民の安全・安心に
貢献できます。



近畿管区警察局
京都府情報通信部 情報技術解析課 主任

2019年採用
一般職試験(大卒程度) 機械

2019年 近畿管区警察局 採用
2021年 現職

技術力で、
警察の捜査活動を
アシストできます。



東北管区警察局
岩手県情報通信部 情報技術解析課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度) 農学

2021年 東北管区警察局 採用
2022年 現職

01 現在の業務内容

私が現在勤務している情報技術解析課では、警察官が捜索差押え現場で押収したパソコンやスマートフォン等について、事件に係る記録データの抽出等の電磁的記録の解析を行っています。また、捜索差押え現場に同行して、警察官への技術面のサポートも行っています。さらに、民間事業者等に対し、ランサムウェア等の不正プログラムに対する被害未然防止を目的とした講演を行うなど、サイバー犯罪やサイバー攻撃における各種対策の技術的支援を担っています。

02 業務をする上で心がけていること

警察官のニーズを把握し、捜査の役に立つ解析を行うため、警察官との連携を大切にしています。捜索差押え現場に同行する際にも、十分に打ち合わせた上で臨むとともに、状況に応じた対応ができるよう心がけています。また、デジタルデータは、簡単に消えたり書き変わったりしてしまうため、正しい知識を身に付け、慎重に解析を行うようにしています。技術は日々進歩しており、犯罪に使われる技術も高度化していくため、常に最新の情報に気を配り、知見を広げるようにしています。

03 職場の雰囲気について

女性や年齢の近い職員も多いため、気軽に相談しやすく、とても働きやすい職場だと感じています。育児休暇やフレックスタイム制等、各種制度を利用している職員も多く、それぞれに合った働き方ができる環境だと思います。

04 現在の業務で一番達成感を感じたこと

警察官から「以前に要請した解析結果のおかげで、捜査が進展した」と聞いたときには、とてもやりがいを感じました。解析を行う上で、高度な知識や技術が必要な場合もあり、難しく感じることもあります。上司や同僚に相談したり、他県や管区、警察庁本庁に助言を求めたりしながら進めています。互いに知識を出し合いながら、チーム一丸となって業務に取り組んでおり、やり遂げられたときには、大きな達成感を感じます。

05 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員は、専門的な知識や技術を活かして、最前線の警察活動を支えることができます。とてもやりがいのある仕事です。業務内容も多岐にわたり、研修制度も充実しているため、様々な経験を通して能力を高めることができ、必ず自分に合った分野が見つけれられると思います。治安維持に貢献したいという意欲や、新しいことを学ぼうとする探究心のある方に入っていただけるのを楽しみにしています。

01 警察庁を志望した理由

私が警察庁一般職技術系を志望したきっかけは、大学3年生のときに、サイバー防犯ボランティアに参加したことです。このボランティアは、大学のボランティアセンターと警察が共同で行ったもので、主にインターネット上の違法有害情報のパトロールを行っていました。そのときの経験を振り返り、サイバー犯罪についてより専門的かつ技術的な仕事をしたいと考えたことが理由です。

02 業務をする上で心がけていること

解析の対象となる電子機器には、事件解決に繋がる情報が記録されていることがあります。そのためデータが改変されたり消えたりすることがないように、慎重に扱っています。自分が担当した解析の報告書が、捜査において重要資料として扱われる可能性もありますので、解析を実施するときは、他の人が行っても同じ結果が得られるように、作業手順の記録をしています。

03 職場の雰囲気について

業務の状況により多少異なりますが、基本的に落ち着いた雰囲気です。優しく面倒見の良い先輩が多く、働きやすい職場です。業務に関する文献も多く置かれ、プログラミング等の自己研鑽に励むことができます。

04 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

「情報通信の勉強はしたことないし・・・」など不安を感じる人もいるでしょう。実際、私も大学時代は、米のひび割れに関する研究と植物病理学や食品栄養学等の農学に関する勉強だけで、「情報通信」は未知の分野でした。しかし、警察庁一般職技術系では新人育成の研修が充実しているため、知識の無かった私でも、業務に必要な警察の情報通信に関する知識を習得することができました。学生時代の専攻によらず、学ぶ意欲があれば誰でも活躍できるはずです。

警察庁内部部局

警察情報通信研究センター

新しい技術に触れ、 未来の警察活動に 活かす



警察庁長官官房
技術企画課 先端技術導入企画室 主任

2014年採用
一般職試験(大卒程度) 物理

2014年 東京都警察情報通信部 採用
2017年 東京都警察情報通信部主任
2020年 警察庁情報通信局主任
2022年 現職

自分の熱い思いを 形にできる職場です。



警察庁長官官房
通信基盤課 主任

2011年採用
I種試験 電気・電子・情報

2011年 関東管区警察局 採用
2014年 関東管区警察局係員
2016年 附属警察情報通信学校主任助手
2019年 警察庁情報通信局主任
2022年 現職

Unsung hero ～縁の下の力持ち～



警察庁長官官房
通信基盤課 通信運用室 主任

2015年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2015年 東北管区警察局 採用
2018年 東北管区警察局長
2020年 警察庁情報通信局主任
2022年 現職

01 現在の業務内容

警察業務を高度化・合理化するための先端技術の活用について検討を行っています。先端技術の中でもとりわけAIをメインに扱っていますが、単に「警察業務にAIを使用する」というだけでは十分ではありません。適切なニーズ分析や調整、導入計画など細心の準備が必要です。そのため、現場の要望と民間の技術との橋渡しとなり、実証実験等を実施して、効果的な導入が可能であるのかなどの検証・評価を行っています。

02 地方機関の業務とギャップを感じたこと

ギャップを感じることはばかりですね。先端技術導入企画室では警察庁本庁の中でも特徴的な業務を行っており、扱う技術、対象となる警察業務、官民の相手方など、地方機関での経験とは全く異なっています。特に、これからの警察業務を考えるという経験は、警察庁本庁ならではの経験です。また、知りたい技術を持つ事業者にデモンストレーションをお願いして実際に体験するなど、先端技術に触れる貴重な経験ができています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

地方機関の業務とのギャップは大きいですが、技官としてのマインドは変わりません。先端技術によって警察業務の高度化・合理化を実現することにより、国民の安全・安心の確保と治安の維持に大きく寄与すると信じ、誇りと使命感を持って日々業務に臨んでいます。先端技術の活用に興味がある方、業務の高度化・合理化に意欲がある方は是非、先端技術導入企画室を希望して頂ければ幸いです。

01 現在の業務内容

私の所属している通信基盤課は、第一線の警察官が使用する無線機をはじめ、通信指令システム、全国警察を結ぶネットワーク等の様々な警察通信施設の整備・維持を担当しています。これらの警察通信施設は、警察業務を遂行するために必要不可欠なものであり、警察の神経系統とも言えます。私は、警察通信施設が24時間365日利用できる状態にするため、日々のメンテナンスや老朽化した警察通信施設の更新を行う業務に携わっています。

02 地方機関の業務とギャップを感じたこと

地方機関にいたときは、主に自身が所属する都道府県警察のことを考えて業務を行えば良かったのですが、警察庁本庁の場合は、全国の地方機関や都道府県警察から様々な確認や相談を受けるため、個別の実情を把握しておくことが欠かせません。また、警察庁本庁として全国の地方機関や都道府県警察に指示を出すこともありますので、発言の重みが違うと感じました。

03 職場の雰囲気について

霞ヶ関という夜遅くまで明かりが付いているイメージを持っている方も多いと思いますが、近年はワークライフバランスが推進されており、残業が少なく休暇も取りやすいため、公私ともに充実した生活を送れています。

01 現在の業務内容

私は現在、全国の無線、映像、衛星通信システム等の運用統制、大規模な警備に係る情報通信対策の指導や調整を担当しています。突発的な事案や大規模災害が発生した際には、地方機関における機動警察通信隊活動の指導・支援、関係所属や首相官邸への現場映像配信等を担当しています。

02 業務をする上で心がけていること

地方機関に対して指導するためには、警察庁本庁の方針をよく理解して、根拠に基づいた判断をする必要があります。そのため、日頃から警察庁本庁で定めている関係規程等をよく読み、どのような根拠に基づいて業務が行われているのかを理解するように心がけています。また、突発的な事案等が発生した際には、地方機関や関係所属と連携して対応できるように日頃からコミュニケーションを取るよう心がけています。

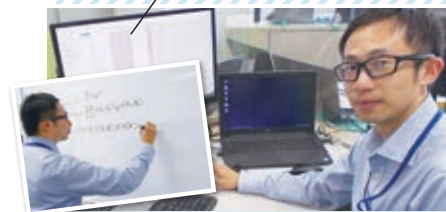
03 現在の業務で一番達成感を感じたこと

現在の業務で一番達成感を感じたことは、通信運用室員として初めて対応した令和2年7月豪雨の対応に当たったことです。被災した県を管轄する地方機関と連携し、機動警察通信隊が撮影した被災状況を警察庁本庁へ映像配信する回線の調整や衛星通信システム等の運用を統制するなど、迅速かつ的確な対応が求められました。この災害対応を通じて、地方機関、現場で活動する機動警察通信隊と連携し、情報通信職員として大規模災害における情報通信対策を完遂できたことに達成感を感じました。

警察大学校に置かれている警察情報通信研究センターでは、警察の情報通信に関する研究事務を所掌しており、世の中に普及している様々な情報通信技術や実用化されているサービスの動向を調査し、これらを警察活動に活用するべく研究を行っています。

このようにして得られた研究成果は、犯罪捜査の効率化や警察における情報システムの整備に活用されています。

最先端研究で 自分だけの技術をその手に



警察情報通信研究センター
応用第一研究室 主任助手

2017年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2017年 関東管区警察局 採用
2019年 警察情報通信研究センター 助手
2021年 現職

サイバーセキュリティ対策研究・研修センター

サイバーセキュリティ対策研究・研修センターは、犯罪の取締りのための情報技術の解析に関する研究やサイバー空間における警察全体の対処能力向上に係る研修を行う機関として、警察大学校に設置されており、解析研究室と捜査研修室の二室で構成されています。解析研究室では、解析手法の確立に向けた研究等を、捜査研修室では、サイバー捜査に従事する捜査員や幹部に、高度な技術的知見等を修得させるための研修を行っています。

解析の面白みを 煮詰めたような研究が 待っています。



サイバーセキュリティ対策研究・研修センター
解析研究室 主任助手

2013年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2013年 近畿管区警察局 採用
2016年 サイバーセキュリティ対策研究・
研修センター助手
2018年 サイバーセキュリティ対策研究・
研修センター主任助手
2019年 県情報通信部係長
2021年 現職

01 現在の業務・研究内容

サイバーセキュリティ対策研究・研修センターは、情報技術の解析及びサイバー事案の防止対策の分野で様々な調査・研究をしています。私が所属するチームの研究テーマは、電子機器からのデータ抽出とその可視化です。電子基板のどこにデータが保存されているのか、記録媒体からどのようにしてデータを抽出するのか、などと頭をひねる日々です。このような研究をもとに様々な電子機器のデータを扱うことができれば、将来の犯罪捜査や事実の立証に役立てられることになります。

02 業務をする上で心がけていること

情報通信分野は技術の進展が非常に速く、より高度に、より巧みに、より汎用的になってきています。私たちもこの流れに遅れないよう、大学や民間企業との共同研究、海外における研究調査などを交えて積極的に知識・技術を吸収するように心がけています。また、自分の研究分野にとらわれない幅広い情報収集も必要です。研究とは関係のない分野のニュースでも、好奇心を持って知識を集めていれば思わぬところで使う機会がくるものです。

03 職場の雰囲気について

調査・研究を主とする職場ですので、行き詰まった部分があればみんなで相談して解決しようという雰囲気があります。解決できるなら他の研究室や部署まで巻き込んで、問題に取り組みます。どこまでも研究が優先です。

多様な活躍のフィールド

都道府県警察への出向



熊本県警察本部 警務部
情報管理課 係長

2012年採用
無線従事者資格

2012年 九州管区警察局 採用
2015年 県情報通信部主任
2017年 警察庁情報通信局係員
2018年 警察庁情報通信局主任
2020年 現職

01 現在の業務内容

私は、熊本県警察に出向し情報管理課で各種情報システムの維持管理、システムの更新等の業務を担当しています。また、情報セキュリティを維持するための県警職員への指導・教養なども行っています。

02 出向中に一番驚いたこと

警察には国が整備するシステムと県が整備するシステムの2種類があります。県警に出向し、県が整備するシステムの多さに驚きました。システムの仕組みを一から覚えるために日々勉強の毎日ですが、これらのシステムが第一線の警察活動に役立っていると思うとやりがいのある職場だと思います。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員は、出向先も含め様々な分野で活躍することができます。警察情報通信学校や民間の各種研修制度があり様々な知識を習得しながら働く事ができます。培ってきた知識及び技術を第一線の警察活動に活かし、安全・安心な社会の実現に向けて一緒に頑張りましょう。

他省庁出向



デジタル庁
係員

2018年採用
一般職試験(大卒程度) 電気・電子・情報

2018年 中部管区警察局 採用
2021年 現職

01 現在の業務内容

私の仕事は、デジタル庁で受け持つシステムに対するセキュリティインシデント(機械やシステムのセキュリティに関する事故やリスクなど)への対応を行い、システムや個人情報などを守ることです。例えば、不審メールが送られてきた場合に、ウイルスが含まれていないかなどを確認して被害を未然に防いでいます。

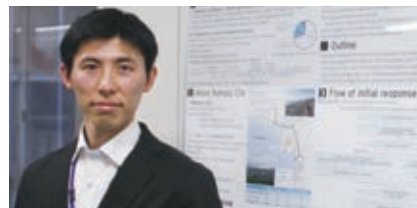
02 業務をする上で心がけていること

セキュリティの分野では日々新しい技術が生まれているので、勉強し続けて知識を蓄えなければ、仕事をこなせません。そのような必要な知識がないと、セキュリティインシデントへの対応や他の職員との議論などが円滑に行えなくなるため、専門的な知識やそれに関わる用語について、しっかりと勉強するように意識しています。また、困ったときには周りの方に相談するなど、コミュニケーションを取りながら業務にあたるよう心がけています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

警察庁の技術系職員は国民の皆さんと直接関わることは少ないですが、警察組織を支えるために必要不可欠な職種です。他省庁へ出向しても、技術系職員として学んだこと・経験したことを活用することで、円滑に業務を進めることができると感じています。技術系職員となった皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

留学



筑波大学 留学中

2009年採用
無線従事者資格

2009年 近畿管区警察局 採用
2012年 警察庁情報通信局係員
2017年 警察庁情報通信局主任
2018年 警察情報通信研究センター助教授
2021年 現職

01 研究内容

安全で安心できる犯罪の起きにくい社会の実現に、国民は警察に大きな期待を寄せています。そのため、様々な分野において、犯罪を未然に防ぐ技術開発や研究を進めています。私は、行政官国内研究員として、現在筑波大学において、警察活動を高度化・効率化し、犯罪を未然に防ぐ研究をしています。具体的には、GIS(地理情報システム)やビッグデータ解析技術を用いた空間統計学等を習得しつつ、犯罪多発地域に焦点を当てて犯罪リスクを低減する応用研究を行っています。

02 研究をする上で心がけていること

研究する上で必要なことは、必ず、第一線の警察官に役立ち、犯罪に怯える国民を守る技術を作り出すという使命感を強く持つことです。研究が現場の警察官のニーズに応えるよう、現場の意見を踏まえながら、技術的な業務支援に繋がる研究を目指しています。研究で培ったノウハウを活用して、現場警察官に頼られる警察のデータサイエンティストとして大きく活躍したいと考えています。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

複雑化する社会の中で、科学的な根拠に基づく警察活動は、益々重要になっています。科学的思考に長けた技術系職員の活躍するフィールドは時代とともに拡大しています。自分の技術で人を守る誇り高い気概を胸に皆さんと一緒に仕事ができる日を待っています。

研修制度

警察庁の研修は大変充実しており、情報通信に関する知識に自信がない場合でも、採用後に身に付けることができます。

採用1年目は、警察情報通信学校での研修のほか、配属された所属での職場実習など、警察庁一般職技術系職員として必要になる基礎的な技術・知識を身に付けるための研修を受けます。

採用2年目以降にも、警察情報通信学校での専門的な研修や国内外の大学院等で研究を行う留学制度があるほか、他省庁が主催する研修を受ける機会もあります。

採用1年目の研修スケジュール

※スケジュールは一例です。状況に応じて学校への入校期間など変更されます。

採用	① 初任研修	② 職場研修	③ 通信職員養成科(技術初任)	④ 職場実習	⑤ 通信職員養成科(技術補習)
	おおむね1か月間 都道府県警察学校の一般職員初任科に入校し、警察職員として必要な基本知識及び自覚を身に付けることを目的とした研修を受けます。	おおむね3週間から1か月間 配属された情報通信部において、業務を行う上で必要な基本知識及び技能について研修を受けます。	おおむね3か月間 東京都府中市にある警察情報通信学校に入校し、技術系職員として必要な基本知識及び技能について研修を受けます。全国の一般職技術系職員の同期とともに過ごすことにより、絆を深め修了後も続く貴重な関係を築くことができます。	年度末頃まで 配属された情報通信部の機動通信課、通信施設課、情報技術解析課の各課において実務を行いながら研修を受けます。警察情報通信学校で学んだ内容を、実務でどのように活用、応用するかについて習得します。	おおむね2週間 採用年度末、警察情報通信学校に再度入校し、採用1年目の研修の総仕上げを行います。

初任研修・職場研修



関東管区警察局
千葉県情報通信部
情報技術解析課 係員

2020年採用
一般職試験(大卒程度)
電気・電子・情報

01 初任研修での経験について

警察学校では、法律や警察礼式、警察職員としての責任や心構えを教わりました。時には厳しい指導もありましたが、国民の警察に対する期待に応えるためには必要な研修だと思います。約1か月間、県警の一般職員採用の同期と協力しながら寝食を共にし、絆を深めることができました。困ったときに相談でき、信頼できる仲間に出会えました。

02 職場研修での経験について

職場研修では、機動通信課、通信施設課、情報技術解析課にて基本的な業務について研修を受けますが、情報通信部の業務の幅広さに衝撃を受けました。一口に通信といっても多くの手段があり、それらの特徴など覚えることが多く大変でした。しかし、各課の係長等が丁寧に説明してくださり、業務について理解を深めることができました。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

国家公務員は、国民のために働ける立派な職業です。業務内容は難しそうに感じるかもしれませんが、研修制度が充実しているので、入庁後に業務に必要な技術力を身に付けることが可能です。初任研修や職場研修を修了した後も警察情報通信学校等での様々な研修の機会がありますので、更に能力を高めていくことができます。活躍の幅は広く、様々な経験を積む機会にも恵まれていると思います。やる気のある皆さんと一緒に働けると嬉しいです。



中国四国管区警察局
四国警察支局 徳島県情報通信部
機動通信課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度)
土木

01 初任研修での経験について

採用されてすぐに、愛媛県警察学校に入校し、愛媛県警察で採用された一般職員と共に警察職員として身に付けるべき警察礼式や職務遂行に必要な倫理観など、警察職員としての心構えや基本的な知識について学びました。教官の指導は厳しいと感じる面もありましたが、一人前の警察職員となることを、改めて自覚することができ、良い経験になりました。入校中は集団行動となりますが、同期との絆を深めることができ、楽しく入校生活を送ることができました。

02 職場研修での経験について

情報通信部各課の業務内容について研修を受け、業務の幅はとて広いと感じました。職場研修では、電話、無線、ネットワークなどの警察通信システムの構成について基本的なことを教わるとともに、主に通信職員として業務を行う上で必要な基本知識や心構えについて教えてもらいます。更に技術的なことに関しては、通信職員養成科や職場実習等で多岐にわたる研修制度があります。

03 一般職技術系職員を目指す皆さんへ

通信分野について専門外であった私でも、採用1年目の研修で基礎を学び、疑問点を上司に教えてもらいながら日々業務に励んでいます。通信分野について専門外でも、研修制度が大変充実しているので、不安を持たなくても大丈夫です。業務の幅は広いですが、その分、様々な面で警察活動を支えることができ、とてもやりがいがあります。是非、警察庁技官の仕事に興味を持っていただけなら嬉しいです。



全国各地で採用された同期とともに、約3か月間、技術系職員として仕事をしていく上で必要となる知識や技能について学びます。

警察情報通信学校入校中に生活する寮は、全て個室となっており、食堂や大浴場のほか、コンビニエンスストアもあり、快適に過ごすことができます。

授業は1日5時限（1時限は80分）で、経験豊富な教官が行います。情報通信に関する知識が無い方でも技術を習得できるように、座学のほか、業務で実際に使用する機器を用いた実習を多く取り入れて丁寧に行いますので、安心して学ぶ事ができます。

全国の同期たちとともに生活し、学習する時間は、お互いの絆を育む、とても貴重なものとなっています。



中国四国管区警察局
岡山県情報通信部
情報技術解析課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度)
電気・電子・情報

01 通信職員養成科(技術初任)での経験について

座学では、業務に必要な知識を基礎から丁寧に学ぶことができました。実習では、実際に簡単な解析作業を経験することで、学んだ知識を活かして技術力を高めることができました。通信職員養成科では全国各地で採用された職員が一斉に入校するので、お互い切磋琢磨できる同期と絆を育むことができる貴重な機会となりました。困ったときに頼ることができる同期が全国にいるという状況は、今後仕事をしていく上で非常に頼もしく感じています。

02 通信職員養成科(技術初任)で印象に残ったエピソード

グループ討議のカリキュラムにおいて、警察職員にとって大切な価値観について話し合い、意見をまとめて全員の前で発表を行いました。全国の同期がどのような考えを抱いているのかを知る貴重な機会となったとともに、より絆を育むことができたと感じています。また、他のグループの意見で自分たちでは考えもしなかったものもあり、良い刺激を受けることができました。



九州管区警察局
福岡県情報通信部
機動通信課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度)
化学

01 通信職員養成科(技術初任)での経験について

通信職員養成科では技術職員として必要となる基本的な知識や技術を学びます。全国から同期が集まるため、様々な人との出会いがあります。新型コロナウイルス感染症の情勢もあり、外出制限がありましたが、その分同期と一緒に勉強をしたり、休日にはカードゲームをしたりして楽しんでいました。同期とは研修修了後も連絡を取り合ったり、旅行をしたりするなど関係性が続いているので、充実した日々を過ごすことができたと感じています。

02 通信職員養成科(技術初任)で印象に残ったエピソード

通信職員養成科では技術系職員としての基本となる部分を学ぶための様々な実習がありました。新しい機器やシステムを扱うことはとても新鮮であり、楽しみながら学ぶことができました。その中でも印象に残っているのは高所作業の実習としてバンザマストに登ったことです。不安もありましたが、正しい手順で安全確認等をしっかりと行うことにより無事にやり遂げることができました。また、実際の業務でも注意しなければならない点と身が引き締まりました。

通信職員養成科1日のスケジュール

6時30分の起床から23時の消灯まで、規則正しい生活を送ることで、

一般職技術系職員に必要な規律性や連帯感を高め、同期と協力しながら過ごします。



※記載の講義は一例です。状況に応じて変更されます。

職場における各課での研修（OJT）

警察情報通信学校で習得した知識・技能を基に、配属された北海道警察情報通信部、東京都警察情報通信部及び府県（方面）情報通信部の機動通信課、通信施設課、情報技術解析課の各課において実務を行いながら、約半年間の研修を受けます。

職場研修を通して、警察通信施設における障害発生時の一次対応方法及び基本的な情報技術の解析を行うために必要な知識・技能を身に付けます。



中国四国管区警察局
山口県情報通信部
機動通信課 係員

2020年採用
一般職試験(大卒程度)
電気・電子・情報

01／現在の業務内容

私は、警察組織が保有する無線機及び無線中継所の保守業務を行っています。具体的には無線機器の修理、パトカーへの無線機の搭載、無線中継所のインフラ点検及び無線装置の測定等を行っています。無線機は警察通信情報が入った端末であるため、取扱いには細心の注意を払い、常に高い情報セキュリティ意識を持って業務に取り組んでいます。

02／職場実習での経験について

職場実習では、各係の実務の補助をすることが多くあります。採用1年目の職員としては、実務が分からないのは当然だという気持ちで、たくさん質問して自らのスキルアップにつなげました。また、職場実習は、情報通信部の各課の持ち回りにより行われるところ、部全体の雰囲気を知るチャンスでもあったので、技術の習得はもちろんのこと、各課の人と交流を深めることも意識していました。

03／職場実習で印象に残ったエピソード

職場実習で最も印象に残ったことは、情報技術解析課でのデータの解析実習です。スマートフォンの解析等の、警察庁技官ならではの貴重な経験を積むことができました。スマートフォンの解析実習では、自分のスマートフォンを解析し、想像していた以上にデータの抽出が可能であったので、警察の情報通信部門の技術力の高さに感心させられました。



関東管区警察局
長野県情報通信部
機動通信課 係員

2021年採用
一般職試験(大卒程度)
農学

01／現在の業務内容

警察が独自に整備している「警察基幹通信網」の中でも、「警察電話」や「移动通信システム」に関連した業務を担当しています。具体的には、警察官が所持している携帯用無線機の管理や修理、警察電話を利用するために必要な屋内の配線作業やデータの作成などを行っています。通信機器に不備があれば、警察官が本来の業務を行うことができませんので、いつでも万全な状態にしておくことが私たちの役目です。

02／職場実習での経験について

警察情報通信学校での研修を終えてからは、各係の実務がメインになりました。警察署や無線中継所への出張が多くあったほか、各係の業務に関連したレポート課題の作成があり、自分で調べること、分からないときは素直に先輩に聞くことの大切さを学びました。職場実習を通して、自分に向いている仕事や就きたい係なども段々とイメージできるようになったので、様々な係の業務に触れられる貴重な機会だったと感じています。

03／職場実習で印象に残ったエピソード

自分の卓上に電話機を設置する実習が印象に残っています。「電話機はどうしたら使えるようになるのか？」学校で一通り学んだものの配線のつながりが曖昧で、十分に理解できていなかったのですが、実際に自分で建物内を移動しながら作業を行ったことで「そういうことか!」と理解できるようになりました。現在も電話機の設置作業や障害対応に携わることがあるので、その経験が役に立っていると感じます。

専門研修（各種専科入校）2年目以降

業務において必要となる知識・技術は専門的かつ高度なものとなります。そして日々進化する情報通信技術に対応するため、1年目の採用時研修修了後も様々な研修体系が整備されており、このような専門的な研修は新たな業務に従事するため一定レベルの技術を身に付ける必要があるとき、より高度な技術を身に付ける必要があるときなど、様々な機会に受けることができます。



中部管区警察局
愛知県情報通信部
機動通信課 係員

2019年採用
無線従事者資格

01／技術カテゴリー別専科での経験について

専科は、座学だけではなく、実際の業務で扱う機器を使用した実習もあります。普段自身が携わっている保全業務に関する機器に限らず、自所属に設置されていない機器の取扱いについても学ぶことができました。業務中に行っている作業内容は、実習では詳細に確認でき、設置されていない機器についても、座学や実習によって理解を深めることができました。

02／技術カテゴリー別専科で印象に残ったエピソード

実習で意図的に障害を発生させ、対応方法を学んだことです。普段は障害を発生させないように保守・保全を行っており、頻繁に障害が発生するわけではありません。そのため、実習で障害を発生させることによって、普段見ることのできない障害を詳細に確認することができました。どのような警報が出るのか、また、その対応方法について事細かく学ぶことができ、印象に残っています。



九州管区警察局
宮崎県情報通信部
情報技術解析課 主任

2017年採用
一般職試験(大卒程度)
土木

01／技術カテゴリー別専科での経験について

技術系の業務にも様々なものがありますが、現在行っている業務に特化した研修を受講することができました。現場で行っている業務に直結する知識や技術を習得することができたので、入校を終え現場に帰るときには大きな自信を持つことができました。また、違う業務を行うことになっても、その業務に特化した専科に入校することができるため、新しい業務にも不安なく取り組むことができます。

02／技術カテゴリー別専科で印象に残ったエピソード

実際の現場で扱っている資機材を使用して、研修を受けたことが印象的でした。一からネットワーク機器等を設定することができ、実際にどのような動作を行っているのかを深く理解することができました。普段の業務以上に資機材に触れることができ、細かいところまで理解することができたので、現場で実機を扱う際にはスムーズに作業をこなすことができるようになっていました。

通信職員養成科（技術補習）

1年間にわたる研修の総まとめとして、再び警察情報通信学校に入校し、2年目からの実業務に向け、より実践的な研修を行うとともに、これまでの研修・実習をとらえて学んだ「知識・経験」を、全国の同期と討議を交えてより深いものにします。

若手座談会

～警察庁一般職技術系ってどんな仕事？～

東京都警察情報通信部の若手職員4名に、どのようなきっかけで警察庁一般職技術系を志望し、入庁してから今までどのような経験をしたのか。彼ら・彼女らに語ってもらいました。

機動通信第一課 係員
2020年採用
無線従事者資格

通信施設課 主任

2018年採用
一般職試験(大卒程度)
電気・電子・情報

情報技術解析課 主任

2019年採用
一般職試験(大卒程度)
電気・電子・情報

機動通信第二課 係員
2020年採用
一般職試験(大卒程度)
土木

——警察庁を志望した理由は？

世の中には犯罪被害で苦しんでいる人が大勢いることをニュースで見たり、また、インターネットやスマートフォンが身近に普及している中で、犯罪に巻き込まれることを漠然と恐れている私の母の様子を見たりして、誰もが安心して暮らせる社会の実現に技術面から貢献したいと思い志望しました。

私が警察庁一般職技術系を志望した理由は、採用区分に関係なく募集をしているからでした。私は土木区分での採用ですが、様々な仕事がしてみたいと強く思い志望しました。

警察の情報通信機器の保守業務等を通じて、自身の持つ資格取得の過程で得た無線の知識を最大限に活かすとともに、より幅広い知識や技術を身に付けるため志望しました。また、今までに経験したことのない分野にチャレンジすること

ができるため、自分の可能性を広げられることにも魅力を感じました。

国民の生活基盤の根底には、安全で安心な社会があり、それが成り立っているのは、警察組織が常日頃から国民を見守ってくれているからだと考えていました。私も日本の治安維持に貢献し、さらに大学で習得した知識や経験を現場に近い立場で活かしたいと考え、志望しました。

——入庁前後でギャップを感じたことや変化があったことは？

入庁前は警察と聞いて堅いイメージを持っていましたが、実際には和気あいあいとした職場です。幅広い知識が求められるため大変なこともあります。協力しながら業務を行うので働きやすい環境だと思います。また、最近は女性職員が増えてきていることもあり、女性の方にとっ

ても働きやすい環境になっています。

入庁前は、機動通信、通信施設、情報技術解析という大枠でしか業務を理解できていませんでしたが、様々な要素が組み合わさって組織が成り立っていることを理解でき、この仕事の解像度がどんどん高くなっています。

警察活動は国民の皆さんの信頼があってこそ成り立ちます。そのために警察職員は高い倫理観を持ち、模範となるためにも入庁前より仕事と私生活の両面で責任ある行動を心がけるようになりました。

入庁前は、機動警察通信隊活動や解析業務等がメインの業務だと想像していましたが、基本は地味で細かな作業が重要であることにギャップを感じました。しかし、その地味で細かな作業が、日々の警察活動を通じて国民の安全・安心につながっていることが分かりました。

——今までで一番印象に残っていることは？

大規模警備の対応を行ったことです。私は渋谷駅の地下街無線対策を行うため、各拠点に無線機器を設置するなどの作業を行いました。普段の業務では経験できない作業だったため、非常に勉強になりました。無事に警備を終えられたときに達成感を得ることができ、印象に残っています。

情報技術解析課に配属されてすぐに、破損したスマートフォンの解析を担当しました。破損したスマートフォンの解析は、スマートフォンを分解等して機能回復した上でデータ抽出及び解析が必要となります。必要な道具や解析用ソフトウェアの使い方等何もかもが初めてで戸惑いましたが、上司や先輩のサポートを受けながら、解析を最後までやり遂げることができました。この経験が大きな自信につながりました。

今までで一番印象に残っていることは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の警備における通信対策に従事したことです。警備期間中の緊張感の中で仕事できたのは良い経験であったと思います。また、チームワークで仕事をしていくことの大切さを身をもって学ぶことができました。

私も2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に携われたことが一番印象に残ってますね。国際的な行事であり各国から選手団や要人が来日するため、警備体制は万全でなくてはなりません。各会場での通信機器等の設置、担当エリアの保守パトロール活動、閉会式において映像配信によるデモ対応活動に従事できたことは貴重な経験となりました。

——研修制度についてはどう思いますか？

研修制度は非常に充実している印象です。入庁直後に警視庁警察学校へ入校して警察の基礎を学び、警察情報通信学校の通信職員養成科では業務に関する基礎的なこと全てを学ぶことができ、配属後は業務に合わせてより専門的に学ぶこともできます。

警視庁警察学校では、警視庁の行政職員の方と一緒に寮生活を送りました。そこでは、様々な教養や警察礼式、時間や規則に厳しい寮生活を通じて、警察職員として勤務するための知識や姿勢、心構えを学びました。一番最初の研修で厳しさに面食らいましたが、警察職員としても人としても我が身を正す良い機会になったと考えています。

警視庁警察学校では警察職員に必要な心構えや礼式などの組織特有の所作を学ぶとともに、情報通信職員以外の方とのつながりも得ることができました。警察情報通信学校では様々な専門分野について実技を交えて学び、配属されてから必要とされる基礎知識を身に付けることができました。

採用1年目の研修のほかにも、採用2年目以降には、警察情報通信学校等での専門的な研修がありますね。そこでは、現在の業務に関連した知識や技術をより詳細に学ぶことができます。また、全国から同じ業務に携わっている職員が同期として集まるため、実務面での情報交換もできます。研修修了後も、困ったときに相談し合える同期が全国にいて、とても心強く感じます。

——一般職技術系の業務の魅力は？

警察庁一般職技術系の業務の魅力は、第一線の警察官と一丸となって仕事ができることです。また、私たちが整備している情報通信機器によって日々警察官が円滑に活動できていることを実感することも魅力です。

国家と国民の安全・安心を守るといって誇りと使命感を持って業務に当たることができ、大きなやりがいを感じるができます。また、様々な業務があり、研修制度も充実しています。採用1年目には警察情報通信学校での集中的な研修や各課での職場実習があるほか、2年目に係に配置されてからも、博識な先輩方からの指導があり、日を追うごとに、自らの成長を感じることができることも魅力の一つです。

警察活動を最前線で支援できるということですね。警察官が円滑に警察活動を行うためには私たちの技術力は必要不可欠です。今までに培った知識や経験

を活かし、警察官を技術でサポートしたいという方におすすめです。

技術系職員には様々な業務があるため、自分に合った分野を探すことができます。採用時研修のほか、専科への入校が可能のため、新たな専門分野を1から学ぶことができ、自分の能力を最大限に引き出すことができるのが、この職場の魅力だと思っています。

——一般職技術系職員を目指す皆さんへメッセージをお願いします。

警察職員になることに不安を感じているかもしれませんが、上司や先輩方の指導、充実した研修制度があるので心配することはありません。パソコンや無線など情報通信関係の趣味を持っていると、業務に慣れるのに苦労しないと思います。

周囲の方々が新人を育てようという雰囲気のある職場です。また、今自分がどんな仕事がしたいのか分からない方も、ここには様々な種類の業務があり、自分にあった仕事を見つけることができます。そして、技術のプロフェッショナルとして自分の能力や技術を活かし、国家と国民の安全・安心を守る警察活動に貢献できるため、大きなやりがいを感じられます。

私は入庁前から無線資格の取得に励んでいたため、無線の分野には自信を持って取り組むことができています。学生の皆さんも自分の得意な分野を見つけておくことで業務に役立てることができるかもしれないので、興味のあることには積極的に取り組むようにすると良いと思います。

大学や専門学校等で学んでいることを後悔がないように深く追求してほしいですね。就職して社会人になると、どうしても自分の時間を確保することが難しくなる場合が多いと思います。学ぶことが仕事である学生の間に思う存分に学んで、自信をつけていただき、自信をつけた皆さんと一緒に働けることを楽しみにしております。

通信運用室長



警察庁 長官官房 通信基盤課 通信運用室長

工藤 健一

1984年採用・国家公務員Ⅲ種試験(電気)

現在の業務内容

警察庁の一般職技術系職員として採用されて以来、第一線である都道府県（方面）情報通信部と警察庁を往来、通信施設部門や機動通信部門を中心に仕事をさせていただき、現在は警察庁本庁の通信運用室長というポストで全国の大規模災害や事件事故への対応、機動通信関係の業務指導を主な業務として使命感・責任感、やりがいを感じながら日々仕事をしています。



一般職技術系職員を目指す皆さんへ

一般職技術系職員は、通信、電気・電子、情報処理・解析など多様な技術で都道府県警察の活動を支援しており、都道府県（方面）情報通信部は自分の持っているスキルを十分に発揮できる非常にやりがいのある職場です。警察庁や都道府県警察での勤務、国内外の研修などいろいろな経験もできます。また、福利厚生や教養制度が充実しており、特に警察大学校附属警察情報通信学校は実習環境や講義内容が非常に充実しており、皆さまにも満足いただけることと思います。

私自身は“このような職場に育てていただいた”という強い思いがあります。皆さまにも是非同じ思いを感じてほしい、共に仕事ができることを心からお待ちしております。

府県（方面）情報通信部長



中国四国管区警察局 島根県情報通信部長

宇畑 進

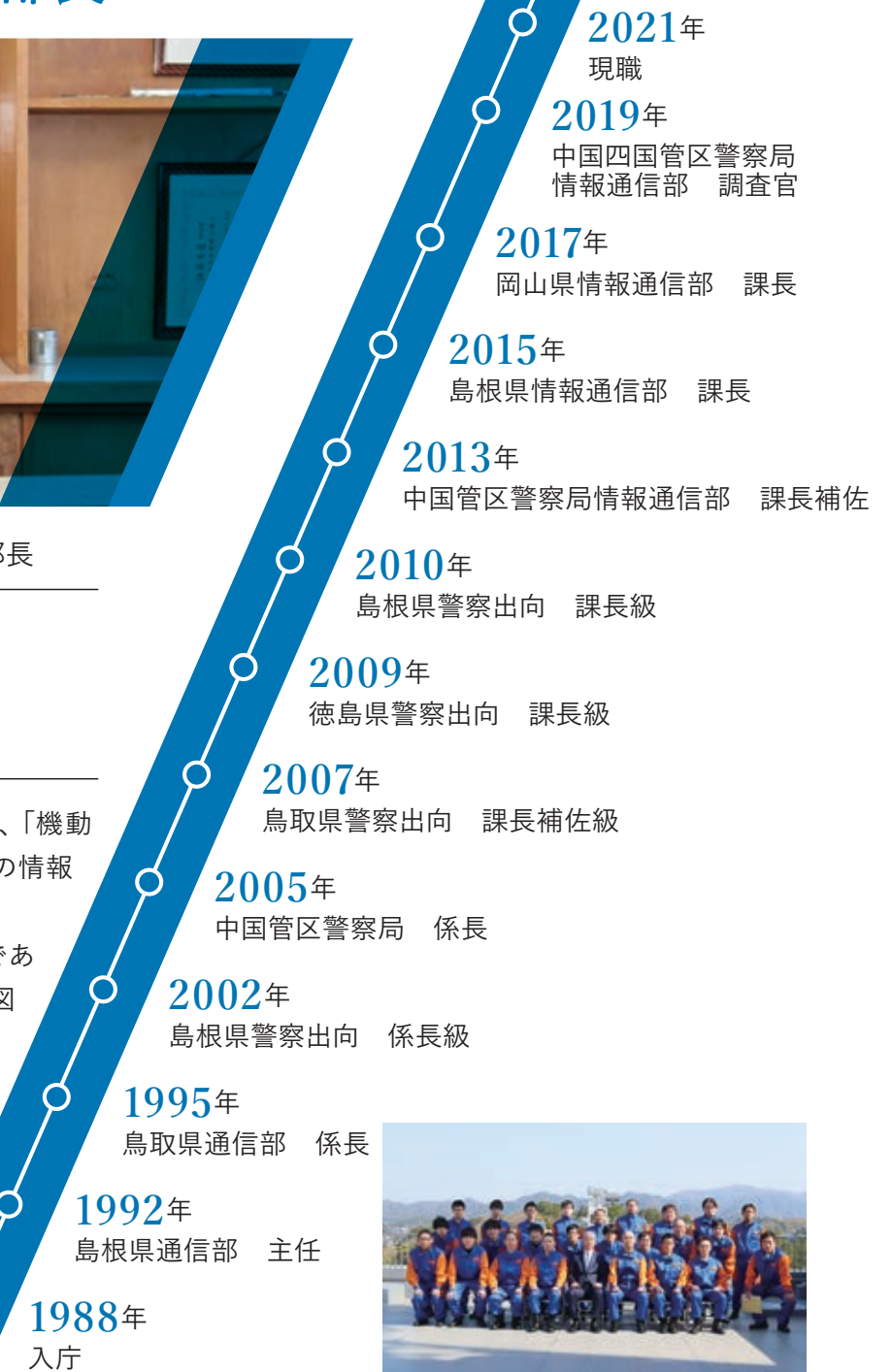
1988年採用・無線従事者資格

現在の業務内容

主に「警察通信施設の整備、維持管理」、「機動警察通信活動」及び「犯罪の取締りのための情報技術の解析」に関する業務を行っています。

私は責任者として、情報通信技術のプロである職員が持つ能力の発揮と組織の最適を図り、県警察の活動を適切に支援できる体制の充実や働きやすい環境作りに留意した業務運営を行っています。

また、県警察の幹部会議に出席してニーズや課題を把握し、対処に係る新しい技術や情報通信システムの導入に関する警察庁本庁等との協議を行っています。



一般職技術系職員を目指す皆さんへ

友人の誘いから入庁し、情報通信システムの情報のつながりが地域の安全・安心につながっている感覚を実感してきました。

例えば、刑事ドラマで無線を使って犯人を追い詰めるシーンでは、無線がつながるのが「当たり前」で、故障のシーンを見たことがありません。現実でもそのつながる「当たり前」を毎日、実現しているのが我々の仕事です。

平穏な日常生活や地域の安全・安心を支える仕事には「やりがい」があります。技術者としての自分の成長を感じられる職場へ、今度は私があなたをお誘いします。



府県(方面)課長

中国四国管区警察局
岡山県情報通信部 情報技術解析課長

景山 高樹 1997年採用・無線従事者資格

現在の業務内容

中国四国管区警察局岡山県情報通信部情報技術解析課で、岡山県警察が行うサイバー犯罪やサイバー攻撃等の事件捜査への技術的な支援や、岡山県内の重要インフラ事業者に対するセキュリティ対策に必要な技術情報の提供等を行っています。現在は課長として、電子機器からの情報の抽出や不正プログラムの解析といった岡山県警察への技術的な支援などを円滑に行うことができるよう、関係各所と協力して取り組んでいます。

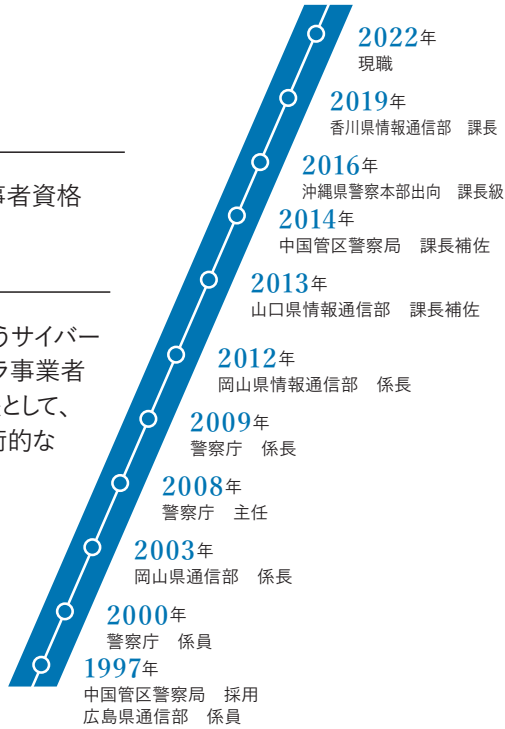
これまでのキャリアを振り返って

警察庁本庁に初めて出向したとき、警察の業務で使用する情報システムのプログラム改修を担当しました。自分が改修したプログラムが実際に使われ、現場から「とても使いやすくなった。」との声をいただいたとき、自分の技術が人の役に立てたことに喜びを覚えました。

地方では、出身地である岡山県を中心に、広島県、山口県、香川県などで勤務しました。技術系職員として地方の安全・安心に貢献できることにやりがいを感じています。

一般職技術系職員を目指す皆さんへ

警察の仕事は人々の安全・安心に直結しますので、警察を技術的に支える仕事にはとてもやりがいを感じられます。近年はサイバー空間の脅威への対処や業務の合理化・効率化など、警察における科学技術分野のあらゆる場面で技術系職員の参画が求められるようになり、その期待も大きいものがあります。自分の技術を人のために役立てたいと思っている方、ぜひやりがいのあるこの仕事に挑戦してください。



教授

附属警察情報通信学校
通信技術教養部 教授

長尾 美紀 2004年採用・国家公務員II種試験(機械)

現在の業務内容

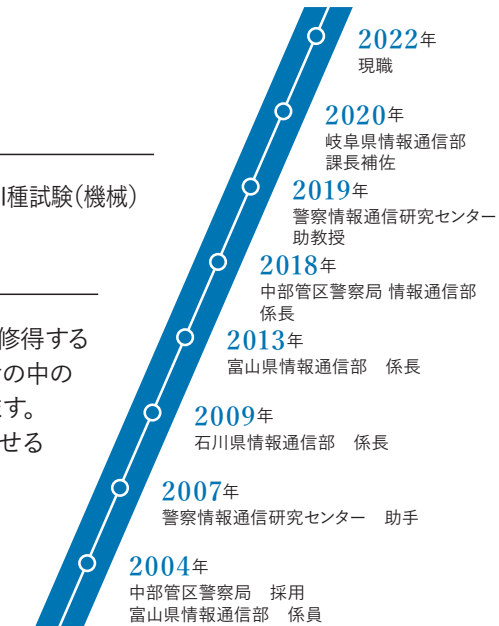
私は警察情報通信学校の教授として、新規採用者の採用時研修や、専門知識を修得する専科研修を担当しています。各研修を実施する上では、技術そのもののだけでなく、世の中の情勢やそれに伴う様々な課題に的確に対応していくための幅広い知識が必要となります。そのため、研修内容の充実を図るのはもちろんのこと、学生にその研修を受けさせることで組織がどう潤うか、といったことも気にかけて行っています。

これまでのキャリアを振り返って

今年で採用から19年目となります。通信施設課の勤務が長いのですが、機動通信課や警察情報通信研究センターでの勤務もあります。勤務が変わるときには、『着任から3か月の間に大まかに業務を把握し、4か月目からはフルパワーで』を念頭に、誇りと使命感を持って働いてきました。お陰で多方面への幅広い視野を持つことができ、知り合いも増えました。また、私に理解のある男性と巡り会え、職場内結婚ができ、公私ともに充実しています。

一般職技術系職員を目指す皆さんへ

科学技術の急速な進展により、我々の組織に求められる技術力も日々変化していくため、その中で仕事をするには時には困難なこともあります。一方で、新しい技術に挑戦することは、とてもワクワクすることでもあります。新しい技術を取り入れるには、皆さんのように若い世代の考え方が欠かせません。また、女性も活躍できる職場です。これからの警察情報通信に皆さんの若い力で一緒に取り組んで行きましょう。



ワークライフバランス



中部管区警察局
富山県情報通信部 情報技術解析課 主任

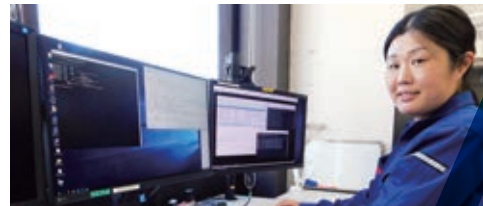
2014年採用
一般職試験(大卒程度) 機械

仕事と育児の両立の体験談

長女が2歳、長男が生後4ヶ月の時、妻が里帰り出産から帰ってきたタイミングで、2ヶ月半の間、育児休業を取得しました。

当時の上司に妻が二人目を懐妊していると伝えたところ、すぐに「育児休業を取得するつもりはないか?」と提案して貰いました。育児休業を取得したいと考えていたため、こちらから伝えるより前に提案していただい、相談しやすかったと覚えています。

最近では、育児休業を取得する男性職員はとも増加しており、今後も更に増えていくと思います。仕事と育児の両立に非常に理解がある職場です。働きやすさを日々実感しています。



中部管区警察局
愛知県情報通信部 情報技術解析課 係長

2005年採用
II種試験 電気・電子・情報

仕事と育児の両立の体験談

私には7歳の長男と5歳の長女がいます。合計で約5年間、育児休業を取得しましたが、復帰時には、同じ一般職技術系職員である夫が交代で育児休業を取得し、スムーズに職場復帰することができました。

現在は、育児時間制度を利用するなどして、保育園や学童保育に通う子供たちの送迎をしています。送迎を夫と交代するときは、フルタイム勤務に変更することも可能で、制度を活用することで、柔軟に、無理なく勤務できています。

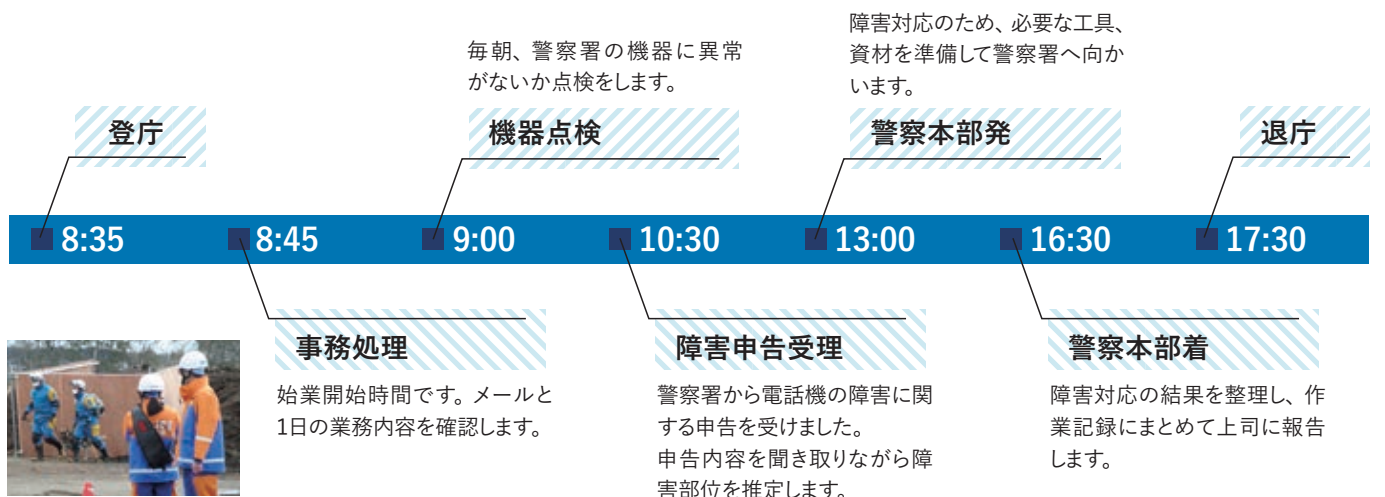
また、子供が体調を崩したときなどに、看護に係る休暇制度を利用することができ、大変助かりました。

若手職員の一日



北海道警察情報通信部 機動通信課 係員

2020年採用
一般職試験(高卒者) 技術(土木系)



現在の業務内容

警察署に設置された通信機器や交換機の保守、無線装置の点検等を担当しており、技術面から警察活動を支える仕事をしています。機器に障害が発生した際に、迅速かつ正確に対応ができるよう、日々勉強し能力向上に努めています。また、有事を想定した各種訓練を通じ技官としての事案対応力を高めています。

休日の過ごし方・リフレッシュ方法

休日は基本的に仕事は休みなので、よく好きなスイーツを食べに出歩いています。日頃から美味しそうなスイーツの店、カフェなどを探しておいて、週末に食べに行くというのがここ最近のスタイルです。このほか、家で映画やアニメ、ドラマ鑑賞をして休日も充実した時間を過ごしています。



採用Q&A

採用窓口

Q1 国家公務員採用一般職試験のどの試験区分から採用されますか？

A 大卒程度試験及び高卒者試験の技術系全区分から採用しています。

Q2 採用は管区警察局のみで行われるのですか？

A 各管区警察局、四国警察支局、北海道警察情報通信部及び東京都警察情報通信部において採用しています。なお、関東管区警察局と東京都警察情報通信部は、合同で採用を実施しています。

Q3 国家公務員試験合格者しか採用されませんか？

A 第一級陸上無線技術士の資格を保有する方を対象とした、選考採用も実施しています。また、一定の職歴等を有する方を対象とした、経験者選考採用を実施する場合もあります。

Q4 採用実績を教えてください。（2023年度は、令和5年2月現在の内定者数）

A

採用年度	国家公務員一般職試験										選考試験		計
	大卒程度									高卒者	無線資格 (一陸技)	経験者採用 (係長級)	
	電気・電子・ 情報(※)	機械	土木	建築	物理	化学	農学	農業 農村工学	林業				
2019年度	32	5	8	1	7	2	2	0	0	10	37	0	104
2020年度	27	2	8	2	3	11	3	0	0	16	33	0	105
2021年度	11	5	2	0	4	16	11	2	0	18	34	2	105
2022年度	21	1	2	1	4	15	14	0	1	7	37	0	103
2023年度	11	5	4	0	5	8	9	0	0	7	39	0	88

※「電気・電子・情報」区分は、2022年度試験から、「デジタル・電気・電子」区分となっています。
なお、管区警察局別の採用状況は、各管区警察局のホームページ等をご覧ください。

Q5 担当する業務は、情報通信部門のみですか？

A 基本的には情報通信部門の業務を担当しますが、都道府県警察に出向し、生活安全、刑事、交通、警備といった警察の他の分野での勤務や、他省庁での勤務を通じて、情報通信に関する知識や技術を活かし、多様な経験を積む機会もあります。

Q6 総合職技術系と一般職技術系の業務の違いは何ですか？

A 総合職技術系は、技術的な知見を活かしつつ、主に政策の企画・立案等に携わります。一方、一般職技術系は、主に情報通信システムの整備・運用や事件捜査の技術的な支援など、専門的な知識や技能を幅広く応用し、第一線警察活動を技術的に支える業務に従事します。

Q7 警察官のように体力は必要ですか？

A 一般職技術系は技術力で警察活動を支えています。体力にあまり自信がない方や、運動が苦手な方でも心配いりません。

Q8 国家公務員試験合格者ですが、採用までに取得しなければならない資格はありますか？

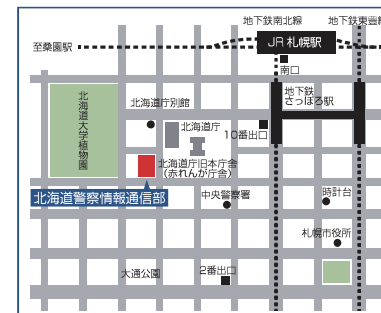
A 採用までに取得必須の資格はありません。採用後は、無線従事者資格である第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために、必要な知識を学びます。

Q9 休暇制度について教えてください。

A いわゆる有給休暇は、1月から12月までの1年間で20日付与され、前年に使用せずに繰り越した分を含めて、最大40日の休暇を取得できます。ただし、採用1年目は、採用された4月から12月までで15日取得することができます。このほか、夏季休暇、結婚に伴う休暇、忌引休暇などの特別休暇などもあります。

Q10 異動について個人の希望は反映されますか？

A 異動に関する希望調査を定期的に行っています。必ずしも希望通りになるとは限りませんが、適正や能力等も十分考慮しつつ、勤務地の希望も含め、可能な限り本人の希望に配慮した人事配置を行っています。



北海道警察情報通信部 通信庶務課

〒060-8520
北海道札幌市中央区北2条西7丁目
TEL：011-251-0110（内線6032）



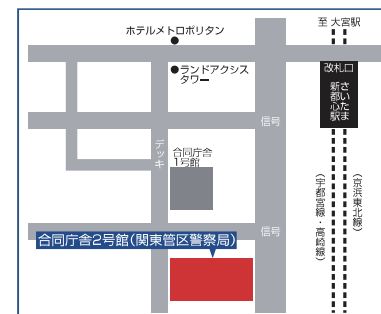
東北管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒980-8408
宮城県仙台市青葉区本町3丁目3番1号
TEL：022-221-7181（内線6032）



東京都警察情報通信部 通信庶務課

〒100-8929
東京都千代田区霞が関二丁目1番1号
TEL：03-3581-4321（内線60311）



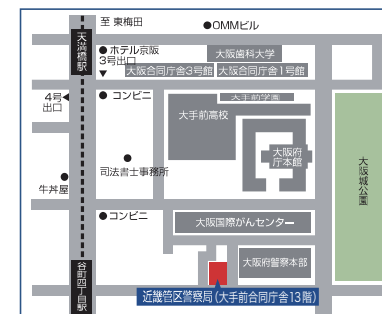
関東管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒330-9726
埼玉県さいたま市中央区新都心2番地1
TEL：048-600-6000（内線6032）



中部管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸二丁目1番1号
TEL：052-951-6000（内線6032）



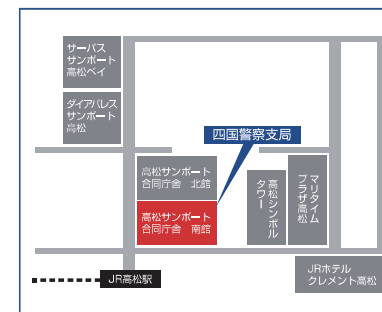
近畿管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒540-0008
大阪府大阪市中央区大手前三丁目1番41号
TEL：06-6944-1234（内線6032）



中国四国管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒730-0012
広島県広島市中区上八丁堀6番30号
TEL：082-228-6411（内線6032）



四国警察支局 情報通信部 通信庶務・施設課

〒760-0019
香川県高松市サンポート3番33号
TEL：087-821-3111（内線6032）



九州管区警察局 情報通信部 通信庶務課

〒812-8573
福岡県福岡市博多区東公園7番7号
TEL：092-622-5000（内線6032）

